

# 令和3年度 社会福祉法人登別さいわい福祉会 事業報告

## 1.はじめに

以前とおさまりを見せないコロナ感染、北海道も4月24日現在で°感染者数 277,794 人、死者は 1,983 人となっており昨年の同時期と比較すると感染者数は8.3倍、死者数は2.3倍となっていることから、このウィルスの感染力の強さを感じるどころです。

各事業所に於いても昨年度に引き続き行事等の中止を継続しております。またコロナ感染による利用者の休みが増えたことにより収入が減額になったことはある程度は仕方が無いものとは思いますが、これからも続くコロナ禍では益々の節約を全体で考えていかなければならないと思っていますところ。

当地域の胆振振興局管内に於いては感染者の高止まりが続いており、引き続き、三密の回避や手洗い、消毒、換気、検温等の対応を徹底していかなければならないと考えております。

また、職員に於いても感染地域への不要不急の外出の行動自粛を引き続き要請するとともに出勤前の検温等について実施してもらい併せて家族等で感染地域への外出がある場合には口頭による報告を義務づけ、状況によっては自宅待機をさせるなどの感染予防をしております。

しかし、現在の感染における国の対策はある程度の緩和策をとっていること、感染に対する認識が以前ほど厳しくなくなっていること感染してからの発症が短くなっていること等から何事において抑制することはせずに現状の対策に合わせた状況で対応をしていきたいと思っています。

## 2.法 人

令和3年度に於いても就労継続支援 B 型事業「月とらいおん」、生活介護事業「サポートセンター心愛」、共同生活援助事業「地域生活支援センターoneself」の3事業所と、公益事業として「生活困窮者等に対する安心サポート事業」を引き続き行っています。

公益事業につきましては登別市社会福祉協議会を中心に市内社会福祉法人が共同で行っている事業ですが具体的な事例報告は無いのですが継続しているところ。

当該年度については、年度当初より生活介護事業所心愛移転問題を一番に揚げて進めようとしたましたが、コロナウィルス感染対応を最優先に日々変わる対応策に費やしてきました。秋頃に落ち着きを見せましたが、昨年末から第 6 波の感染拡大が徐々に始まり当該地の胆振地方も2月11日に最大の感染者数を記録し、以降減少傾向が見られたのを機に令和4年 3 月21日をもってまん延防止法が解除されました。しかし、下げ止まり感が強く以前として大きな感染減にはつながっていないような気がします。利用者、職員とも第3回目のワクチン接種が進んでおりますが、まだまだ予断を許さない状況は続くものと考え、第 7 派の警戒をしなればならないと考えております。

施設内の消毒、手洗い、換気等、送迎車両内の随時消毒の徹底を図ってきましたがグループホームのパート職員が発熱し4月10日に抗原検査で陽性となり保健所の指示よりその職員が勤務時に関わった利用者及び職員については濃厚接触者とはならないとのことでしたが、PCR 検査を2

回実施しいずれも陰性という結果が出たところです。職員の感染経路については不明でした。ただ、全く予期せぬところからの発症でしたので大事をとって2つのGHの利用者については、「心愛」、「月とらいおん」の通所事業所には行かず一週間職員が出向いて日中活動を実施して健康観察を行いました。今後に於いて益々の感染対策の徹底を行分ければならないと強く感じたところです。ただ、一番に予定していた心愛移転の問題が完全に棚上げ状態のおきざりになったことは事実で本当に待った無しの状況に陥ったことは深く猛省するところです。

次に、3事業所運営についてですが、就労継続支援施設「月とらいおん」利用希望者が減少していましたが、新規学校卒業生は皆無でしたが年度途中からの紹介等があり受入れを行っています。今後に於いても引続き受け入れを実施するとともに就労継続支援施設としての役割の一般就労に向けての体制(流れ作り)作りを確立していかなければならないと思います。

次に、生活介護事業所「サポートセンター心愛」ですが、利用契約数が増えてきており日々の活動員数についても一日平均18人となってきています。利用増にともない現状の賃貸箇所では手狭になってきており、自閉傾向の方及び員数が多く雑音が苦手な方々の対応策としてアーニス裏のばれっとの一階を使用して分散させて支援をするなどの方法で利用者の安定を図りながら日々行っています。また、利用希望の傾向として車イスの方多くなってきています。そして入浴の要望が多いのも最近の特徴ともいえるところです。

コロナ禍であります。心愛移転については次年度中に目途をたてなければなりません。

次に共同生活援助事業ですが、依然コロナ感染の終焉が見えない状況下、新規女子ホームはコロナ感染対策の場として待機状態にしてありますが使用することなくこれています。これも引続き待機場所として継続していかなければならないと思っております。

男子ホームときわが次年度から利用者5名が障がい程度区分が全員4以上になることでスプリンクラーの設置の義務が生じることになります。早急に大家さんとの交渉に入り整備していかなければならなくなりました。ただ、グループホーム内はコロナ感染対策の一環として職員以外は立ち入りを認めておらず保護者も全て玄関対応ということにしている関係で苦慮しているところです。

仮に工事が始まると居室内等に一般業者を入れることになり、工事が終了するまで毎日職員が館内全ての消毒をして利用者を受入れするというのは不可能ことと思います。取り敢えず一番いい方策を検討していかなければなりません。消防からは早めに設置をして欲しいと言われています。

## 重点目標について

心愛移転に伴う準備委員会はコロナ禍の中、全く機能せずいたことは本当に猛省するところです。コロナ感染の予測が立たない中での言動は継続性が無いものばかりで何かに於いて慎重に考えたことが先延ばしになってしまいました。

今年度は、全てコロナ感染対策を優先として活動してまいりましたが、感染状況が日々変化中、高止まりが続いたり急に終息に向かったりと誰もが予測できない状況であることから、国や道などの指示に従い感染予防の徹底を図り、情報を保護者及び職員等に書面にて通知するなどできる範囲内のことをすすめてきました。ワクチン接種についてもほとんどが3回目の接種を完了しており重症化しない対策もとってきました。しかし予期せぬかたちで感染者が出たのは前記したとおりです。利用者に感染者が出た際には前年同様に女子については新規ホーム、男子については、ばれっ

との2階住居部分を利用したいと準備をしています。

職員の研修については、全てオンラインによる研修会に参加しています。そして伝達研修として他の職員全員に周知するようにしております。特に虐待研修につきましては、積極的に参加するようにしております。各事業所に於いても、定期的に職員へのアンケート調査を実施するなどメンタルケアに対応をしております。

次に職員採用ですが、以前として新卒者の希望は無く年度の中途採用が多い状況です。しかし昨年同様に資格取得に次年度も1名が通信教育受講予定であり法人としても引続き積極的に声を掛けていきたいと思っています。

防災関係では、火災を含め定期的な訓練を各事業所ごとに実施しています。昨年、道は千島沿岸沿いの巨大地震を含めた津波の浸水想定を公表しましたが、当市に於いては最大津波高12mとなっており、沿岸部では39分から44分で津波が到達すると言われていました。

市は津波避難計画と防災マップの作製を急いでいますが特に就労支援施設「月とらいおん」は津波高が12m 対象地域とっていることから定期的訓練は必須であり真摯に行わなければならないと思います。

研修につきましては、コロナウイルス感染拡大に伴い全てがオンラインとなっており内容等をみて参加するようにしています。役員等については本年も実施していません。

法人に於ける理事会、評議員会についてもコロナウイルス感染を考慮し、全て書面審査で行っています。今後は状況を見ながら従来の通り参加型会議を開催したいと考えていますが、コロナ感染状況により書面会議もやもえないと思っています。

### 3.就労継続支援 B 型施設「月とらいおん」

#### はじめに

今年度に於いても依然としてコロナ感染の終息が見えない状況下、各イベントの中止が相次ぎ依然としてうどん店の閉鎖やイベント先での販売中止は続いており売上は低迷したままです。特に施設外のホテル客室掃除については一時的開始されたものの直ぐに第 6 波のコロナ感染の兆しがみえ継続不可となり、そのままフェイドアウトになり現在も正式には待機状態です。

今年に入り市内の運送会社から連絡が入り雇用を前提とした採用の話があり、施設外のメンバーから利用者を出し当面施設外の作業として動き、将来的にはその中から就職に向けて検討していくことになり正式に施設外作業として契約しています。また、新たに市内事業者から水耕栽培でのバジル栽培、リモコンセット付属ビス入れの作業もはいり既に始めております。

特にビス入れ作業は非常に簡単なことから多くのりようしゃが関われるという利点があることから全科で積極的に取り組むことにしています。

体験学習や実習等につきましてもワクチン接種や検査等をしたうえでの実施としています。室蘭北斗学園の単位実習生は2年続けて中止となっています。

施設行事については花見、日帰り行事、納涼祭、宿泊研修、忘年会とも全て中止としております。次年度以降もコロナ感染の状況を見ての判断となります。

#### 重点目標について

##### ①工賃向上について

今年度については3科4 作業体制として、うどん店についてはコロナ感染対策のため不特定多数の人が利用するという事で閉鎖のままで推移しています。作業としては新規でバジルの水耕栽培やパロマ(株)のリモコンセット付属ネジ入れが加わりました、特にリモコンセット付属ネジ入れは単純作業で全ての利用者が関わることができ作業評価も簡単なことから安定した作業であると思っています。バジルの水耕栽培につきましては昨年秋に温泉のピザ屋さんからの依頼があり室内のニンク部屋の一角を使用して簡単なキットを購入し栽培をしています。状況としては 400 株で栽培しており一部をホテルまほろば、萩野のイタリヤ料理屋、個人にも卸しています。

施設外作業のホテル清掃業務については、コロナ感染によるまん延防止法の施行等でホテルの休業などもありほとんど仕事が無い状態で昨年の11月に仕事依頼があり数日間行きましたがコロナ感染により部屋数も少なくなりそのまま待機状態で推移しています。最近は徐々に客数も復活してきているようですが曜日で偏りがあるのと以前のように一程度の部屋数確保及び安定した日数を確保できなければ利用者のモチベーションが下がることは必至で利用者も以前のような期待館無くなってきました。施設外のメンバーは大半の人たちは外で働きたいと思っているのが多くフォーレ白老の菌床水漬け作業や新規の(株)光輪のダンボール作り等の作業もはいつてきていることから利用者にはその都度意思確認をとりそれぞれに参加しています。

ホテルの清掃作業については安定した作業の保障等がなければ参加は困難と考えています。

パロマ(株)のリモコンセット付属ネジ入れ作業につきましては、パロマ(株)から市の障がい G に

話しがあり市内の各事業所に案内がありました。作業内容としては数種類の金属ネジと PC プラグを同等の数をビニール袋に入れるだけという簡単作業で全ての利用者が参加できるという利点があり納入も一週間に一回で安定した作業量が見込めることから全科で取り組むことにしました。いまのところ1週間で12000袋を納入しています。

次に各作業科の状況について説明致します。

#### 畑 班

水耕栽培を中心に露地物も栽培しています

水耕栽培については、冬季の温度管理が難しく現状のキット全てをビニールで覆い暖を特に暖房関係については灯油の高騰などもあり採算ベース

本年度は、水耕栽培キットを減らして完全にビニールで覆い暖房を焚かないで栽培を試みましたが成長速度は圧倒的に遅いのですが一定の温度確保ができることが確認できたことにより次年度よりは栽培数を増やし越冬できるようさらなら方策をこうじていきたいと思っています。

現在、品種が2種類しか栽培していないことからさらに品種を増やすことで購買力の増加を図りたいと考えております。また、隣のハウスも水耕栽培に切り替えていきたいと考えています。

当初、このハウスはハウレンソウの連作を考えておりましたが土の疲弊としたが砂地ということで水分等の保持が難しくハウス全体の6割程度の生育しかないので年間通して作れる水耕栽培に徐々に切り替えていきたいと考えております。そして一部露地物は継続してカブ等を作付けしていく予定です。

#### とうふ班

以前としてイベントの中止が続いており、また生産もシフォンケーキだけという状態が続いておりあとは温泉土産店の笹竹茶の袋詰めとなっています。とうふ作業を希望または適している利用者も少なく作業量としては十分な現状です。新製品は勿論の事他の作業についても検討していかなければならないと考えています。現状の販売については月一回の市役所販売、店頭販売、ふるさと納税返礼品のみとなっています。

#### 室内班

例年通り下請け作業として(株)グットネスの保冷剤関係、みてネット配布、ウニ板作りと自主作業としてにんにくの播種そして同じ場所に於いてバジルの水耕栽培を始めています。

バジルの水耕栽培は現在は400株の体制で栽培をしています。販売先としては前記しましたように温泉のピザ屋、ホテルまほろば、白老萩野のイタリア料理店、個人に卸しています。

また、(株)パロマからのネジの袋詰めについても各班と協力し当班が窓口になって行っています。始めたばかりなので不確定要素も多々ありますが、安定した作業種であるとともに全員が関われる内容ということが一番で作業成果も目に見えて分かることからある程度の主体となっておこなっていききたいと思っています。

#### 施設外班

メインしていたホテル清掃の業務は依然として目途も立たないまま推移しており、昨年11月に一度再開しましたが、コロナウイルス感染もあり直ぐにとん挫しました。(株)白老フォーレの菌床作業については冬季における自動車事故の心配から1月、2月は休んでいましたが利用者の強い要望

もあり今年度は年間通して通いました。利用者の働きたいという強い気持ち改めて知らされた同時に彼らの高い意識を感じたところです。

また、市内国道沿いにある(株)光輪という会社から障がい者雇用の話があり、障がいについて認知してもらうことも含め、まずは施設外としてスタートしています。現在は4名の利用者が交代で作業に従事しておりこの中から2名ほどが近い将来一般就労に向けていく予定です。

(株)クリンビルのホテル清掃については新型コロナウイルス感染に対して国の対応を見極めた上での話し合いになるのかと思います。いずれにせよ以前とは状況が変わっているので再開等については十分な話し合いと体制作りからになると思われまます。

個別支援計画の策定やモニタリングは毎月の支援会議で半年、1年という単位で実施しており、施設内作業の支援を通して利用している皆さんが前向きに生産活動に参加するよう支援し、それぞれがモチベーションをあげて「街で働く」ことの実現に向かっていけるよう続けて支援してきます。

施設での行事については、新型コロナウイルスのために全て中止としています。まる2年間行司をしていないことで利用者の皆さんも無いことが普通になったのか最近では声も聞かなくなりましたが数少ない行事なので次年度以降も状況をみながら考えていきたいと思ひます

火災や災害等の避難訓練は定期的を実施しています。とくに地震による津波対策については当地が最大12mの津波予想が昨年示されたことにより、なお一層の緊張感をもって実施するよう心掛けています。火災訓練年1回の消防の立会をお願いして実施しています。

利用者の動向としては、1名が昨年5月に自宅で急逝し、1名が再度、利用開始ということで現在は34名です。

## 4.生活介護事業所 サポートセンター心愛

### はじめに

今年度は契約30名、一日の利用員数は約18名と日々の員数が増えてきています。ゆえに入浴やリハビリなど個人対応が多くなってきています。また医療的な介助も要となってきており1名の男子看護師を採用し、パート看護師との約1.5名体制になっています。職員は運転業務も入れ15名になっています。障がいの重たい方や車いすの方など年々個別対応を必要とされている利用者が増えている中、日々の連絡や引継ぎ等に重点をおき安定した日々の支援にあたっています。また、利用員数が増えてきたことで手狭にもなってきていることもあり利用者それぞれの特性も考慮した上でぱれっとの1階を使用して落ち着いた雰囲気の中で活動できるよう配慮しております。

コロナ感染がまだまだ落ち着きを見せない中ではありますが、移転に向けての準備を加速していかなければならないと思います。

### 重点目標について

#### 安定したサービスの提供

運営方針に基づき、昨年、同様個別に特化した支援を充実させるべく、日中の動きを「看護グループ」と「日常グループ」に分けての支援を継続しています。医療的な支援要素が必要される方々の利用の増加と日常生活の基本におくことでより安定した生活をおくれるように支援をしていく目的でおこなっていますが、職員もそれぞれの分担により動くことができ明確な把握体制もできることで支援に隙間がないようになってきています。次年度も2名の車椅子の利用が決定しており生活介護の需要は益々必要とされるものと思っています。

利用している方々の日々のメインは入浴と運動が主となりがちですが、心愛はそれに創作活動と生産活動をも取り入れて活動しています。これには看護グループも日常グループの方も出来るだけ参加するべく意識付けを行っており少しでも社会参加できるよう支援しています。

しかし、障がいの特性を重んじていくと、どうしても個別対応が必要となり職員の増員は必須になってきますが現状の職員体制を維持しつつ安定した職員の確保をしていかなければならないと思っています。

生産活動は、ポスティングやウニ箱作り、一部保冷剤の袋詰めと例年と変わりなく行っていますが月とらいおんの作業の一部を内部受注を継続したり月とらいおんではじめた(株)パロマのリモコンセット付属ネジ入れの仕事も取り入れて行うようにしています。これは単純にネジを一定の本数を袋に入れるだけの作業なので安定した継続作業になるよう職員ともども頑張っていきたいと思っています。

### 体験学習及び実習生(ボランティア)の受入れ

実習生等の受入れについては、随時受入れを行う方向でいしましたが、新型コロナウイルスの関係で単位取得学生については、PCR 検査を条件にしています。養護学校の実習生については、感染状況を見ながら、受け入れ時期を変更するなどに対応しています。単位取得学生の実習はありませんでした。次年度に於いては、感染状況をみながら養護学校の生徒を受け入れていきたいと

考えております。

### 地域イベントへの参加

地域へのイベントの参加は、新型コロナウイルスの関係で全てに於いて参加はしていません。ただ、少しでも地域との関わりをということで、ポスティングを月2回実施しており、利用者と職員で一緒に参加しています。

### 事業の内容

個別支援計画及びモニタリングは、定期に利用者本人か保護者と面談もしくは電話等で行っています。日中の動きについては、日々の安定した生活をおくるべく、昨年同様一人ひとりに合わせた動きを心掛けるようにしています。また、新型コロナウイルス感染の関係で行動範囲などを限定したり制限して活動しています。

行事は全て新型コロナウイルスの関係で中止としています。次年度についても感染状況を見ながらの開催になるかと思えます。

避難訓練は、定期的に地震や火災等を実施しています。特に地震による津波の想定が現状の借家では建物

定期的 to 実施をしています。大きなトラブルも無くみなさん落ち着いて参加しています。

## 5.共同生活援助 地域支援センター oneself

### はじめに

一昨年から始まったコロナ感染ですが、各ホームから誰一人感染者を出すことも無くなりましたが、本年の4月に入ってから男子ホームのパート世話人(3回目のワクチン接種済)から陽性反応が出てその職員が勤務していた期間に接触のあった利用者及び職員全員の PCR 検査を2回行い全員が陰性ということでクラスターにもならず済んだものの感染症の怖さを改めて知らされたような気がしました。 いま一度手洗いやうがい・マスク等の徹底を図ってきたところです。

男子ホームに市の障がい G からの要請もあり1名の入居を許可しています。現状としては22名利用中で男子2名の空床です。ただ、そのことにより男子ホーム「ときわ」が重度入居率が100%になったことでスプリンクラー設置義務ができました。早急に大家さんとの交渉にはいりどのような対策をするか費用問題も含め検討しなければならなくなりました。

### 重点目標について

すべての利用者の安心・安全な生活を支援していくことで、地域との関係も築きあげていくことでなお一層の障がいへの理解や災害時に地域の支援もらえるよう日々の関わりに重点をおきながら利用者一人ひとりの支援を行ってきています。もちろん完璧なものではなく夜中に大声を上げる等の状況もあることから慎重に支援しています。特に男子ホーム「ちとせ」は入居者全員が障がいの重い人たちで構成されており夜勤職員1人では不安があることから3月末よりひと月の大半を2名体制にすることができました。これにより「ちとせ」は緊急時にも十分対応可となり隣の「ときわ」に対しても対応することができるようになりました。

週末帰省は保護者の協力を得ながらストレス緩和のために実施していますが、今年度はコロナ感染の心配から自宅で過ごさせる方も多かったような気がします。ただ、完全に帰省できない利用者もいることから、その人たちのためのストレス解消の意味も含めての過ごし方は検討していく必要はあると感じています。しかし、今年度もコロナ感染のためにほとんど外出などの行事も実施しておらず次年度以降の課題としたいと思います。

利用者が自分たちで1ヶ月の金銭の収支を計画を立て意識していけるよう昨年同様に、まずは意識できる利用者から買い物支援を実施しています。利用者自身で、収入や支出を計算し、予定を立てて買い物に行くという自分で考える機会にして行っていますが徐々ではありますが意識づけができてきています。次年度に於いても継続支援としていきたいと思っています。

4ホーム全ての夜勤体制の確立はできており、現在はホーム「すみれ」、「ちとせ」の2つが一月の数日を夜勤2名体制としており夜間の緊急時に於ける対応が可能になっています。2つのホームとも障がいの重い方が入居しておることから求人を引き続きかけていき1年365日が2名体制となるべく目標としていきたいと思っています。他のホーム「ときわ」についても入居者全員が障がい程度区分4以上となったことから、こちらも考えていかなければならないと思っています。

職員体制は2名の専属をおき、たりない部分については心愛と月とらいおんの職員が兼務体制でカバーしています。今のところは安定しておりますが利用者一人ひとりの個別支援となると障がい

の重い人たちが利用している当事業所としては人員不足を感じる場所ですが現状の体制で、まずは事故等が無いように支援し極力利用者一人ひとりが地域で安定した生活をしていけるように職員が連絡を密にして関わっていきたいと思っています。

火災や自然災害等における避難訓練は定期的実施しております。各ホームの近隣には事前に声をかけトラブルが無いよう心掛けています。昨年、道から示された津波予想については、どのホームに於いても避難水位には達しないとのことでしたが、全てのホームの近くには川があることからもし津波が発生した場合には到達時間が早いことから十分に留意しなければならぬと思います。

新型コロナウイルスが発生した場合に備えて男女とも住居を準備しています。また備品関係も用意しております。

引き続き感染者を出さないよう手洗い・消毒の徹底、不要不急の外出を控えるなどの対応をしていきたいと考えております。